京都精神保健福祉士協会

きょうと通信 NO.９２



２０１２年　６月発行

事務局：医療法人栄仁会　宇治おうばく病院内
〒611-0011　宇治市五ヶ庄三番割 32-1
TEL　0774-32-8399（直）
FAX　0774-32-8399（直）
e-mail　office@kyo-psw.org
HP　http://www.kyo-psw.org/

【7 月例会のご案内】

日　時：2012 年 7 月 24 日（火）　18:45～21:00
場　所：キャンパスプラザ京都　2 階　第 3 会議室
テーマ：「支援活動に学ぶ～知ることからはじめよう～」
講　師：矢吹　文敏氏（日本自立生活センター所長）

7 月例会では、矢吹 文敏氏を講師にお招きします。
現在、矢吹氏が携わっておられる活動は、日本自立生活センター・障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会事務局長・東北被災地支援活動など多岐にわたり、たいへん精力的に動かれています。
困難きわまる中、確固たる信念を貫いてこられた姿勢や想いを、これまでの活動を中心にじっくりお話をいただきます。障害や職域を越えた視点を学ぶとともに、みなさんぜひぜひ矢吹氏からエネルギーをもらいましょう！ご参加、おまちしています。

（研修部）

【第 12 回（2012 年度）総会概要報告】

■会長挨拶
本日は 2012 年度京都精神保健福祉士協会総会記念講演会にお集まりいただきほんとうにありがとうございます。わたしがこの場でこうやってお話をさせていただくのはこれで 3 回目になります。自分がこのような立場にあることには相変わらず慣れることができず、迷うことわからないことばかりで、ますます重責を感じている今日この頃です。
さて、昨年は東日本大震災がおこりましたが、わたしたちはあらためて自然に対する畏敬の念を抱き、あたりまえにあるこの日々の暮らしの脆さを実感しました。さらに、どうあってもその暮らしの回復に対してはさまざまな格差があることを感じずにはいられません。

支援活動をとおしては、わたしたちがソーシャルワークをおこなう者として、あらゆる場で力を発揮できる可能性と責任を改めて感じると同時に、やはり助けを求めることの苦手な方たちや、再起することに助けの必要な方たちへのまなざしを忘れてはいけないと思いました。

また昨年は障害者制度改革推進会議が大きな役割を果たした年でもありました。骨格提言はたくさんの議論を経て到達した大きな成果です。ほとんどこの内容が具体的にとりあげられていない事態に私たちも抗議文を出しましたが、障害者自立支援法は新たに「障害者総合支援法」という法律に名前を変えることになるようです。しかし、制度改革はすでに次のステップにはいり、障害者政策委員会が組織され先日その委員も任命されたところです。これまでの議論がどう活かされるか見守っていかなければなりません。同時に差別禁止条例の制定に関する動きが京都においても進んでいます。また少し影に隠れているようにみえますが、精神科医療体制についての審議会も進行しており、「強制入院のあり方」それに伴う「保護者制度のみなおし」「病棟機能の分化」に合わせて「人員配置のあり方」なども重要な課題になっています。協会では今年もこれらの動きに対してできるかぎり関与していきたいと思っています。

一方でわたしたち個々人のソーシャルワーカーとしての資質の向上をめざしていくことも協会の大きな役割です。今年もさまざまな課題について「ソーシャルワーカーとして」ということにこだわって活動をすすめていきたいと思っています。

今日は総会ですのでこの会のあり方について短い時間ではありますがざっくばらんに活発に議論をしていただければと思っています。それではどうぞよろしくお願いします。

簡単ですが開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

会長挨拶の後、議長選出、総会運営委員の紹介、書記の選出と進んだ。総会運営委員長より出席状況が確認、総会成立の宣言がされ議事に入った。

■議事

日　　時	2012 年 5 月 27 日（日）　10:30～12:30
会　　場	ハートピア京都（京都府総合福祉センター）　大会議室
司　　会	知名　純子（役員）
議　　長	吉田　久美子（ジョイント・ほっと）
書　　記	畔田　智子（事務局）・望月　梓（事務局）
総会運営委員	斉藤　徹（委員長・役員）・下村　洋介（役員）
	堤　こずえ（岩倉病院）・中條　了（なごやかサロン）
	松井　玲子（西山高原工作所）
総会成立状況	議決権有会員数　348 名（会員数 357 名）
	出席　199 名（会場　54 名・委任状　145 名）
	成立要件（過半数 175 名以上の出席）を充たし総会は成立した
	傍聴者　2 名（議決権無会員）

第 1 号議案

「2011 年度事業報告」（報告：物副会長、斉藤・知名・上田・藤井・森田・畚野　下村　各担当役員）

「2011 年度会計報告および会計監査報告」（報告：堀田担当役員・岡島会計監査）

「会計監査を受けて」（西村会長）

（採決）拍手　賛成多数にて

第 2 号議案

「規約改正」（提案：西村会長）

（採決）挙手　反対 0、保留 0、賛成 199 にて承認

「懲戒処分規則改正案」「倫理委員会規則改正案」「役員選出規則改正案」

（提案：西村会長）　（採決）挙手　反対 0、保留 0、賛成 199 にて承認

「総会運規程改正案」（報告：西村会長　規程は役員会の承認によって改正）

第 3 号議案

「2011 年度事業計画（案）」（提案：畚野副会長）

「2011 年度予算案（案）」　（提案：大塚事務局長）

（採決）拍手　賛成多数にて承認

以上、すべての議案が承認された。

■議案の補足および質疑の概要

第 1 号議案に対して

概要）（物副会長）：

2011 年度役員改選により前期よりも 6 名少ない 12 名の役員体制となった。役員会は、毎月第 4 水曜日に開催。毎月開催することで、会議の短時間化を目指したが、検討事項も多く毎回夜遅くまでとなっている。また、役員間のコミュニケーションを深める時間をもうけるようにしているといった役員会の報告から始まり、議案書にそって部や委員会については各担当役員から報告がなされた。通信情報部では、昨年度の総会での意見を受けて、通信をはじめとした情報提示の方法について検討しているが、いましばらく時間をいただきたいとの発言がされた。

補足）2011 年度会計監査を受けて（西村会長）：

まずは、不明金を出してしまったことをお詫びする。みなさんから預かった会費で事業を運営していく立場としてあってはならないこと。気持ちを引き締めていきたい。2010 年度会計監査ではじめて文書指摘を受け、それぞれの項目について取り組んできたところであった。会費の納入については未納の方だけでなく、会費を納めすぎた方も多く最も煩雑であった。今年度会計監査の協力も少し得ながら徹底していきたい。

意見）鈴木　淳子さん（髙木神経科医院デイケアおいけ・記念誌編集委員の立場から）：

会計報告の中で記念誌編集委員会の活動、特に印刷代などが含まれて大きな額になっていることを感じた。前年度から取り組みを始めたが前半のうちはなかなか内容についてまとまらず、後半に多くの時間（費用も）を費やすことになった。

5 名の先輩にあたる我々自身が経験を振り返り文章に残したことはそれぞれにとって感慨深いものがあった。冊子の最後には、年表をおまけみたいにつけたが、内容が不十分であり指摘を受けたりもした。これは、歴史的にも PSW の働く現場が多様であり、それぞれの現場を網羅できていなかったことによる。軸になる部分のみを記していたが不十分であり、今後、たとえば「20 年誌」の作成も検討するのであれば、今回以上に医療・保健・福祉などさまざまな現場からの情報をきちんと集めてより完成度をあげてほしいと感じている。

この記念誌を会員がどう扱っていくか、今後にそれぞれの立場で利用していき、また 5 年後 10 年後にもっといいものを作ってほしい。会員に有効利用をしてほしい。また、そのためにはどういった工夫が必要なのか考えてほしい。

質問）入江　泰さん（京都マック）：

仕事とは別に役員をしておられ頭が下がる。会計が一人しかいない現状であり、

徴収と督促や金庫番を一人でしているのであれば、役割を分けた方がいいのではないか。どのように会計の運用をしているのかが知りたい。

⇒大塚（事務局長）からの回答：

お金の取り扱いについては会計の堀田さんが一人で行っている。しかし、会費の徴収については事務局や役員が手分けをして呼びかけを行っている。会費振込通知は、事務局に届くので確認した後、会計に報告して帳簿および伝票へ落とし込んでいる。

（昨年度の会計の不明金を受けて）

今年度は、役員会の都度収支を合わせる作業を事務局長が協力して行っていく体制にする。また、会計監査の岡島さんの協力を経て 3 ヶ月に一度プチ監査を行うことにする。伝票処理については、役員会の時にお金が動くため、出入金が分っている場合には、役員会前に会計へ連絡するように改善してきたところであり、再度この流れの徹底を図ることとした。会計処理について、2011 年度の件を反省し、役員の責任を重く受け止め、新たな形で組んでいく。可能な限り細やかに会員の皆さんとやりとりをしていきたい。

第 2 号議案に対して

補足）（西村会長）：

今年度、協会ハンドブック（毎年議案書の後ろにつけている資料の部分を集めた規約集のようなもの）の作成に向け今回規約・規則等の見直しを提案する。「総会運営規程改正案」は、案の提案ではなく、改正の報告事項となる。規程の改廃は役員会で実施できるため。

第 3 号議案に対して

補足）事業計画について（畚野副会長）：

昨年度同様、5 つの柱で立てている。労働実態調査に関する事項を削除しているが、１．（２）「障害保健福祉施策に関する取り組み」に、2008 年度の労働実態調査の結果を参考としながら取り組むこととしている。２．（２）基幹研修 I と同様に初任者研修も隔年開催とする。昨年実施しているが、今年度も基幹研修 I を盛り込んだ初任者研修を実施する。平成 25 年 1 月 19、20 日の開催を決定している。平成 25 年度は開催しないことになる。５．その他目的達成上必要な事項に（２）第 7 期役員の選出を追加する。今年度は役員改選の年であり、役員選出が必要となる。2012 年度事業に向けた部・委員会・学習会体制について、障害者自立支援法委員会が「障害者福祉制度委員会」に名称を変更している。今後、法の名称変更に伴って委員会の名称が変更とならないようにと考えている。

補足）予算案について（大塚事務局長）：

支出の部の事業費「広報活動費」について、今回の総会の議案書の印刷・発送作業を公募によって委託事業所を選出した。その結果、西山高原工作所に決定。公募したことによりこれまでよりも費用が削減できた。

■お知らせ（総会終了後会員よりお知らせがあった）

○吉田久美子さんより：

京都精神保健福祉施設協議会 2012 年度総会および記念講演のお知らせ（6 月 17 日 13:30 よりキャンパスプラザにて　記念講演は『人を助けるということ～援助者援助論～』（講師　吉岡隆氏）

○藤井さんより：

京都市中部障害者自立支援協議会全大会総会および講演会のお知らせ（6 月 28 日 14:40 よりひと・まち交流館 京都にて　記念講演は『障害のある方が地域で安心して暮らすには』－自立支援協議会の役割と活用方法－（講師　山田　優氏：福島県被災地における障害福祉サービス基盤整備事業　アドバイザー派遣事業事務局　統括コーディネーター）

○畚野さんより：

(社)日本精神保健福祉士協会京都府支部より東日本大震災の被災地で支援に励む構成員を支える募金のお願い→総会当日の募金総額は 11,961 円であり、翌日日本精神保健福祉士協会に振り込んだ。

■議案書、ほか当日配布物の誤りについて、お詫びと訂正のおねがい

議案書に下記の誤りがありました。慎んでお詫び申し上げます。お手数をおかけ致しますが、訂正をおねがいいたします。

5p　1）例会を開く　　例会開催一覧、9 月 24 日開催を第3回とし、以下第 3‥8 回まで
18p 雑収入の内訳　会議室使用「量」返金分　→　「料」
22p 第 10 条　2 行目　総会で「解約」‥　→「解任」
25p 総会運営規程改正「案」　→「案」を削除、規程の改正は役員会での承認によるため

【3 月例会報告・第 2 回災害支援について考える会】

日　時：2012 年 3 月 24 日(土)　14:00～17:00
場　所：ハートピア京都第 5 会議室
テーマ：第 1 部　被災地支援報告
　　第 2 部　わたしたちのまちが被災したら（延期）
話題提供者：熊取谷　晶さん（京都府精神保健福祉総合センター）
　　加藤　瑞枝さん（京都大学附属病院）
　　今井　真美さん（京都医療少年院）
参加者：16 名

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災からまる 1 年を経過した 3 月 24 日第 2 回災害支援について考える会を開催しました。昨年 11 月 11 日の第 1 回災害支援報告会と比べて参加者が 16 人と少なかったものの、出席者全員が各自の思いを発言する場もあり、貴重な経験交流の場となりました。話題提供者からの報告は「どんな支援をするのだろうか」「現地の実情は」「携わっての率直な感想」など出席者の疑問や期待に応えるものでした。

▽熊取谷さんは「京都府心のケアチーム」の一員として 4 月と 5 月の 2 回支援に入られました。チームは精神科医と看護師や PSW などのコメディカルで構成。支援先は会津地方の避難所と宿泊施設などです。
▽加藤さんも 6 月に同じ「京都府心のケアチーム」として支援に入られ、9 月は日本精神保健福祉士協会からの派遣で東松島に行かれました。こちらは PSW 2 名で仮設住宅と自宅を訪問されました。
▽今井さんは日本精神保健福祉士協会からの派遣で南相馬市と東松島市に支援に入ら

れ、また現在も現地の臨時職員としても活動されています。

報告で印象に残ったものを記しますと、「心のケア」で被災地に入らず、「健康調査」から入る、「京都府」のマークの入った制服は脱いで、普段着に腕章をして入るなど被災住民の感情を考えたこと。「精神科医」が不在の所では「内科医に協力いただいて薬を処方してもらった」など様々な工夫がなされたことです。「力になれる心のケア」とは「こころのふたをていねいに開けること」「無理にふたは開けないケア」であるという言葉も重く感じました。個人宅への訪問では「最初にお仏壇で線香をあげてからお話をお聞きした」など被災住民の気分・感情に配慮した「よりそいの支援」活動がありました。被災地と避難所との気候の違い、「浜通り」の温暖、「会津地方」の豪雪地帯・寒さなど良くわかりました。また地元保健師さんの PSW に対する信頼の強さ、感謝などあらためて PSW の役割・必要性が認識できました。

当初予定していました第 2 部「わたしたちのまちが被災したら」はこの日は行わず、その時間を出席者全員の懇談・交流の場にあてました。第 2 部については改めて 2012 年 8 月に企画いたします。

なお、今回の研修は日本精神保健福祉士協会京都府支部との共催で開催しました。

（災害支援検討委員会　渡辺　始）

災害支援検討委員会は、8 月に第 3 回災害支援について考える会の開催を予定しています。詳細は決まり次第ホームページ等でお知らせします。

【心神喪失者等医療観察法学習会「公開学習会 2012」報告】

日　時：2012 年 4 月 20 日（金）19:00～21:00
場　所：ジョイント・ほっと
テーマ：私たちのかかわりから医療観察法をかんがえる　～架空事例を検討して
参加者：11 名

開催より遡ること半年前、医療観察法学習会では今後の取組みを検討する中で、これまで学んできたことをどう展開させていくべきか模索していました。これまで例会を通じて、弁護士や指定入院医療機関の PSW、社会復帰調整官など多くの関係者から実際の現場の状況を聞きながら学習会を重ねてきました。医療観察法についての情報が少なく、実態がつかめないモヤモヤとした感情を抱えながらも、私達がどう関わっていけばよいのかを考えた時、ある例会の中で、「その方が対象行為に至るまでに介入のポイントがあった」という講師の言葉を思い出し、もう一度ソーシャルワークの原点に立ち戻る必要があるのではないか、という想いに至りました。

一昨年度に続き 2 回目となる今回の公開学習会では、様々な領域に携わっておられる方が参加され、“自分自身が PSW としてどうケースと向き合っていくのか”、いわばソーシャルワークの原点に立ち戻って考える機会を得るために、架空事例を題材に意見を交わしました。

前半では事例の概要と現状、更に後半では医療観察法の対象行為に該当すると思われる過去の出来事が追加情報として提示された上で、それぞれの視点から気づくこと、介入の糸口などについて意見が交わされました。その多くは参加者自身の経験に照らしながら、本人との面談を通して状況を把握しながら危機的な状況に対して介入を試みるこ

とや、本人を取り巻く関係者に積極的に働きかけていくこと、本人に力をつけてもらえる様な支援の在り方や、本人の「強み」「楽しみ」「希望」に重点を置いた関わりなど、いずれもソーシャルワークの基本とも言える取り組みが挙げられました。これらの意見から、本人の病状や生活環境、生活歴などを丁寧に見ていくことで本人からの SOS を早期に察知し、適切な支援へとつなげることが大切だと感じました。

また、PSW の専門性や所属機関の特性を活かした関わりが示される一方で、既存の制度や所属機関で担っている役割が「しがらみ」となり、関わりの中でジレンマを感じる場面があるという意見が、私自身の課題として胸に迫りました。

一旦出来あがった制度は、それがあたかも当然の様に存在するものとして認識されてしまいます。私が日々行なっている業務も現行の制度の上に成り立っていることは事実であり、ともすれば本人よりも制度ありきで進めている状況が多々あることに気づかされます。本来最も尊重されるべき「その人の人生」が法制度に翻弄されてしまう危険性があることに、私達は危機感を持ち続ける必要があるのではないでしょうか。

「本人」の視点から見える世界を想像しながら自分自身の関わり方を考え、その根拠となる価値観やそこから生まれる葛藤などを具現化することは、自らの専門性を見直す作業でもあります。今回の公開学習会を通して、既存の法制度と自らの専門性について問題意識を持ち続けることが、PSW にとって非常に大切ではないかという想いがしました。

（心神喪失者等医療観察法学習会）

【リレー職場紹介】

NPO 法人地域活動支援センターぷろぼの
今村 将貴さん

私の働く職場は、京都と隣接する奈良市の高の原にあります。私の法人は、奈良県内に自立支援法よる 4 つの就労移行支援事業所と就労継続A型事業所、地域活動支援センター、相談支援事業があり、主に障害者の就労をサポートしています。利用されている方は様々な障害を抱えています。なかでも奈良県北中部から京都府南部地域に住む発達障害の方が多く通所されていることが特色です。

利用者は就労移行支援 2 年間の間で、自分のもっている特性を活かし生きがいをもって働くことを目標に、職業訓練を受けに来られています。利用者がそれぞれ違った障害をもちながらも自分の得意なことは何か、苦手なことをする時にどのような工夫と周の配慮が必要なのか、自分整理をしていきます（アセスメント）。アセスメントをすると同時に、自分の得意分野を仕事として活かすための訓練をしていきます（トレーニング）。仕事のスキルだけでなくビジネスマナー・コミュニケーション能力、実際の職場の雰囲気の中で人と協力しながら仕事を継続していける力を職場実習を通して身につけていきます。そしてキャリアコンサルティングや模擬面接を受けながら就職の面接を経て、企業と利用者を繋ぎ合せていきます（マッチング）。このアセスメント、トレーニング、マッチングを利用者の状況に合わせて同時並行的に相互に作用しながら進めています。

スタッフの役割は、利用者 1 人 1 人の障害特性を理解し、長所や得意なことは何か、苦手なことはどんなところか、仕事をするうえで障害がどのような部分で影響してくるのか、どのような工夫や職場環境の配慮があれば仕事を続けていくことができるのかを一緒に整理していきます。また利用者本人が自己理解を深めて、面接時に自分自身のことを伝え自己アピールできるようサポートしています。企業側にも本人の得意・工夫す

ること・配慮事項を理解していただけるよう関わり、会社の求めている人材と本人の働きたいニーズとを繋ぐ役割を果たしています。

また利用者を就労へ向かいやすくするために、就業・生活支援センター、ハローワーク、障害者就業センター、実習させていただける企業、主治医、デイケア、発達障害者支援センター等、様々な関係機関と連携をとりながら、委託訓練事業やジョブコーチ支援を使ったサポートをしています。

関わりの中で障害のある利用者が、自信を得て、今の自分の得意なところ・苦手なところの両方を受け入れられるように、そしてトレーニングを通して更にできることを増やして就労に意欲的に向っていけるようお手伝いすることが、私たちの役割だと感じています。

京都で働いておられる方が多いかと思います。古都奈良の空気に触れる折には、ぜひ気軽にお立ち寄りくださいませ。

【2011 年度　第 11 回　役員会開催報告】

日　時）2012 年 3 月 21 日（水）　19:20～23:00
会　場）高木神経科医院　　進行･書記）大塚
出席者）上田・大塚・斉藤（遅刻）・下村・知名（遅刻）・西村・畚野・藤井・堀田物・森田・渡辺

概要報告を HP に掲載しています→http://kyo-psw.org/member/kapsw/yakuinkai.php

---

【事務局からのお知らせ】

会員の動向

[入会]

廣田　こずゑさん	（所属）社会福祉法人京都総合福祉協会 洛西ふれあいの里デイサービス
杉本　雅世さん	（所属）なし
河合　真紀子さん	（所属）医療法人社団石鎚会田辺中央病院　医療介護相談室 ℡・fax）0774-63-1111
東森　華子さん	（所属）地方独立行政法人京都市立病院　診療科精神神経科 〒604-8845　京都市中京区壬生東高田町 1-2
小林　香代子さん	（所属）長岡京市　こども福祉課 〒617-8501　長岡京市開田 1 丁目 1 番 1 号 ℡）075-955-9558　fax）075-952-0001
安本　真人さん	（所属）なし
後藤　千隼さん	（所属）おおいしクリニック
林　　友樹さん	（所属）特定非営利活動法人 日本自立生活センター自立支援事業所
江本　智緒さん	（所属）一般財団法人川越病院医療福祉相談室
植田　彩子さん	（所属）財団法人長岡記念財団 しょうがい者就業・生活支援センターアイリス
藤ノ木　暢子さん	（所属）なし

北山　紗恵子さん　（所属）安東医院
平野　美菜さん　（所属）医療法人三幸会就労支援センターヒューマンプラス
西脇　千江美さん　（所属）なし
三原　初穂さん　（所属）京都府立洛南病院　事務部
山口　伊都子さん　（所属）京都市役所醍醐福祉事務所生活保護ケースワーカー
〒601-1366　京都市伏見区醍醐大構町 28
℡）075-571-6577　fax）075-573-3785
出﨑　真李奈さん　（所属）医療法人栄仁会けあほうむぴあ
ぐるうぷほーむのあ・グループホームみむろど
吉田　早希さん　（所属）一般財団法人療道協会　西山病院
工藤　裕貴さん　（所属）一般財団法人療道協会　西山病院
橋本　東代子さん　（所属）たかぎクリニック
池内　友莉さん　（所属）医療法人稲門会　いわくら病院

[退会]
川内　由賀さん　（所属）　土佐市地域活動支援センター
羽鳥　恵一さん　（所属）　栄仁会ワークネットきょうと
松﨑　由美さん　（所属）　京都市衣笠ケアプランセンター
森　　千夏さん　（所属）　社会福祉法人福知山市社会福祉協議会
福井千賀子さん
大機　卓文さん
渡邊　真之さん　（所属）　財団法人長岡記念財団

5 月 27 日現在　会員数　361 名

[所属変更]
天岡　憲子さん　（新所属）独立型社会福祉士事業所ナマステ
〒606‐8187　京都市左京区一乗寺大原田町 2　リバーロードタカノ
116 号　　℡）090-9059-8664　fax）075-721-4632
猪飼　裕奈さん　（新所属）医療法人三幸会　北山病院　相談室
入江　泰　さん　（新所属）NPO 法人京都マックアディクションセンター京都マック
〒600-8363　京都市下京区大宮通七条上ル大宮三丁目 18
かつらぎ平安ガスセンタービル 3F
℡）075-741-7125　fax）075-741-7126
小野　幸子さん　（新所属）なし
川島　章　さん　（新所属）医療法人稲門会
就労継続支援 B 型施設いきいき・いわくら
〒606-0017　京都市左京区岩倉上蔵町 61 番地
℡・fax）075-711-2011
小出　享一さん　（新所属）ちゃっぴー居宅介護支援事業所
〒573-0126　大阪府枚方市津田西町 2 丁目 4 番 8 号
℡）072-808-5656　fax）072-808-5657
是澤　雅代さん　（新所属）京都民医連第二中央病院　地域医療連携室
嶌田　裕子さん　（新所属）河内長野市社会福祉協議会
〒586-0041　大阪府河内長野市大師町 26-1
℡・fax）0721-65-0133
鈴木　淳子さん　（新所属）なし

高田　亮さん　（新所属）京都府　中丹西保健所
西川　万志さん　（新所属）就労移行支援事業　京都ふれあい工房
西川　芳子さん　（新所属）なし
橋本あけみさん　（新所属）下京区役所保健部健康づくり推進課母子・精神保健担当
前田えり子さん　（新所属）京都市南保健センター
松井　基　さん　（新所属）財団法人療道会　西山病院　デイケア室
渡辺　恵司さん　（新所属）花園大学社会福祉学部社会福祉実習指導室
〒604-8456　京都市中京区西ノ京壷ノ内町 8-1
℡・fax）075-823-0584

［所属名称変更］
岡田　まりさん　（新名称）立命館大学　産業社会学部
大門かおるさん　（新名称）医療法人社団ウエノ診療所　いずみの里　いろり舎
東口　千香さん　（新名称）医療法人社団ウエノ診療所　いずみの里　あゆみ舎

［所属連絡先変更］
池上　明希さん　（所属）京都大学医学部附属病院　精神神経科
℡）075-751-4911　を追加

［氏名変更］
南條　康代さん　（旧姓）井上　康代さん

会費納入のおねがい

2012 年度会費 4,000 円（きょうと通信郵送利用の方は郵送負担料 1,000 円）のお振込みはお済みでしょうか？年々、会費をお納めいただけない方が増えております。

お届けしました 2012 年度総会議案書に、会費振込用紙を同封しておりますので、取り急ぎお振込みをお願いします。

協会は会費によって運営されておりますので、何卒、ご理解・ご協力下さいますようお願いします。

郵便振替口座番号　：　00960－7－120392
口座名義　：　京都精神保健福祉士協会
年会費　：　4,000 円　　（※　通信郵送負担料　：　1,000 円）

【お知らせ】日本医療社会福祉学会員よりご案内をいただきました！

第22回日本医療社会福祉学会大会のご案内
日　時：2012 年 9 月 1 日（土）・2 日（日）
場　所：同志社大学
テーマ：医療福祉の歴史的展望～医療ソーシャルワークの近未来～
詳細は⇒http://jsswh.umin.jp/society.html

ソーシャルワーカーのためのブックレットのご案内
「災害ソーシャルワークの確立Ⅰ」
スーパーアキュート・アキュート・ロングタームにおける支援の経験から
～日本医療社会福祉学会 2012.03.03 セミナー報告～　（1 冊500 円）

⇒本年3 月に東京で開催された日本医療社会福祉学会セミナーをまとめたものですが、被災からの経過を超急性期・急性期・ロングタームと3 区分し、事例を交え各段階でのソーシャルワーカーの活動を中心にセミナーの内容が再構成されたものです。お読みいただくと、災害時にも超急性期からソーシャルワーカーが重要な役割を果たし得ること、被災地支援を考えることはソーシャルワークの本質を考えることであると気づかれることでしょう。小さく、読みやすい内容で、ポケットにも入ります。今一度、「明日の命や生活」を失うことになった被災地の人たちに深く思いを寄せ、災害ソーシャルワークのあり方を皆で話し合う一助になればと願います。多くのソーシャルワーカーにお読み頂きたい冊子です。
お求めは日本医療社会福祉学会までＦＡＸまたはメールで・注文用紙はこちらから
⇒http://jsswh.umin.jp/cyumon.pdf

ほっとひと息コーナー♪



みなさん、思い出に残っている絵本はありますか？私が大好きだったのは、五味太郎さん作のこの絵本、「きんぎょが　にげた」。
水槽から逃げ出した一匹の金魚が次々とかくれんぼするお話で、何度も読んでもらっては「ここにいた！」と探して遊んでいました。温かみのあるイラストとストーリー、問いかけだけの文章が、読む側のワクワク心を引き出してくれます。
「いつか、我が子にもこの絵本を読んであげたい！」と思っていたので、先日娘のために購入しました♪
また、手元に巡ってきたこの絵本、今度は娘の大好きな絵本になればいいなぁと思いながら、一緒に金魚を探しています。

（おーぷんせさみ　堀　千春）

【編集後記】
今年ももうすぐ暑ーい夏がやってきます。暑さ対策はお早めに！！（堀）
夜になると近くの田んぼでカエルの合唱が聞こえてきて癒しの時間になってます。梅雨の足音が聞こえてきそうな今日この頃、この季節を気持ち良く過ごす方法誰か知っていませんか？（松井）